

CEO意見交換会議資料

暫定版

標準応答スペクトルを考慮した地震動評価に係る  
審査への対応状況及び今後の対応方針  
(案)

2023年2月24日  
九州電力株式会社

1. 審査への対応状況

2. 今後の対応方針

(参考1) 審査会合の実績

(参考2) プラントの状況

- 2021年4月の標準応答スペクトルを考慮した地震動に関する基準の改正後、原子炉設置変更許可申請を提出。
  - 【川内原子力発電所】 2021年4月申請
  - 【玄海原子力発電所】 2021年8月申請
- これまで、川内原子力発電所9回、玄海原子力発電所8回の審査会合を実施。
- 2022年7月までは、主に地震基盤相当面の妥当性について議論。  
議論の結果、当社は、申請時に設定した地震基盤相当面の見直しを実施。
- その後は、主に地下構造モデルの妥当性について議論中。

- 先行して審査可能な項目についてご説明するとともに、地下構造モデルに対する審査会合でのご指摘については、1回程度／月のペースでご説明するなど、迅速かつ丁寧な対応を行っているところ。
- これまでも経営層と審査対応者との間で逐次情報共有を図りながら対応を行ってきたが、審査対応のより一層の迅速化を目的に、社長をトップとしたプロジェクトチームを本年1月に設置し、社長自らがタイムリーに状況を把握し、迅速な経営判断の反映ができる体制を整備。
- 地震動評価後に説明予定の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価については、評価方針について先行してご説明(2022年12月2日 第1097回審査会合)。今後、品質を確保したうえで短期間で評価可能となるよう、解析技術者の増員を図るなど、協力会社と密に連携し評価及び審査期間の短縮を図る。

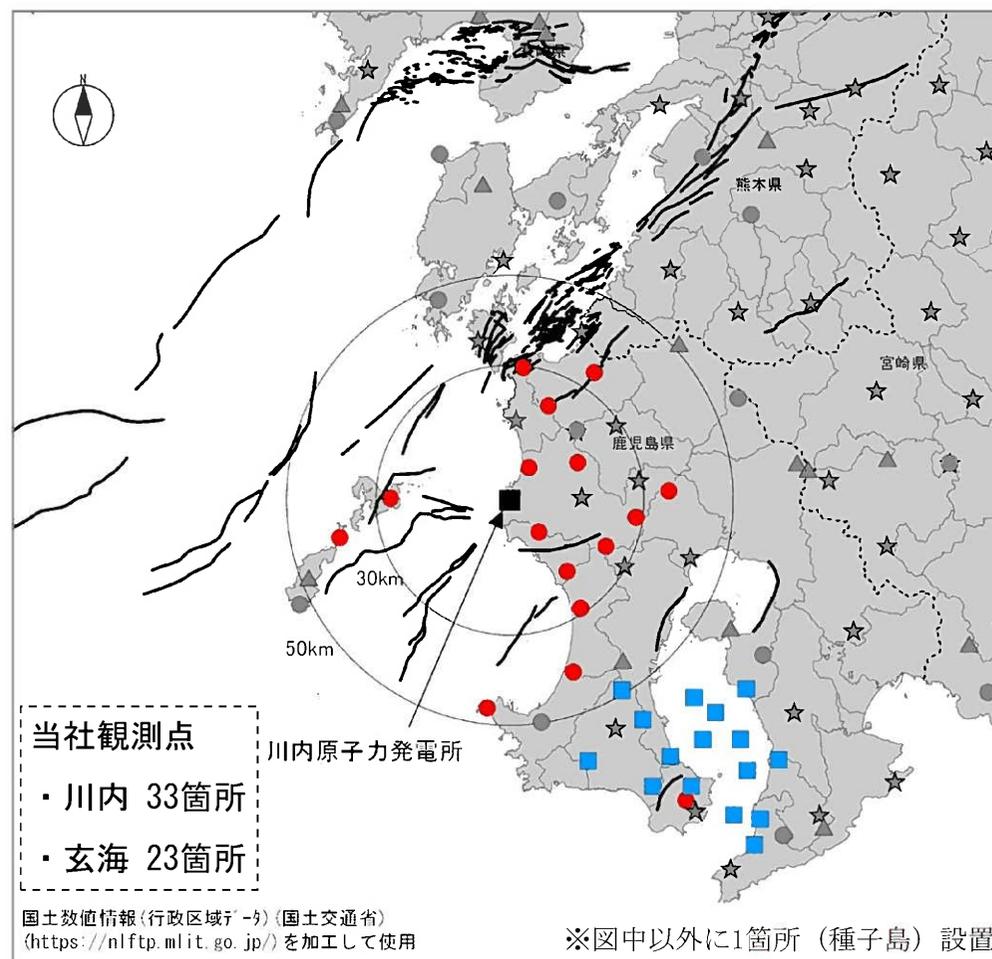
## 【更なる安全性向上に向けた取組み】

○地震動評価については、再稼働後も自主的な取組みとして、地震観測点を増設し地震観測体制の強化を図るなど知見の拡充に努めてきた。

今後も安全性・信頼性の向上を図ることを目的に、最新の技術的知見の収集・分析・評価を実施。

## 凡例

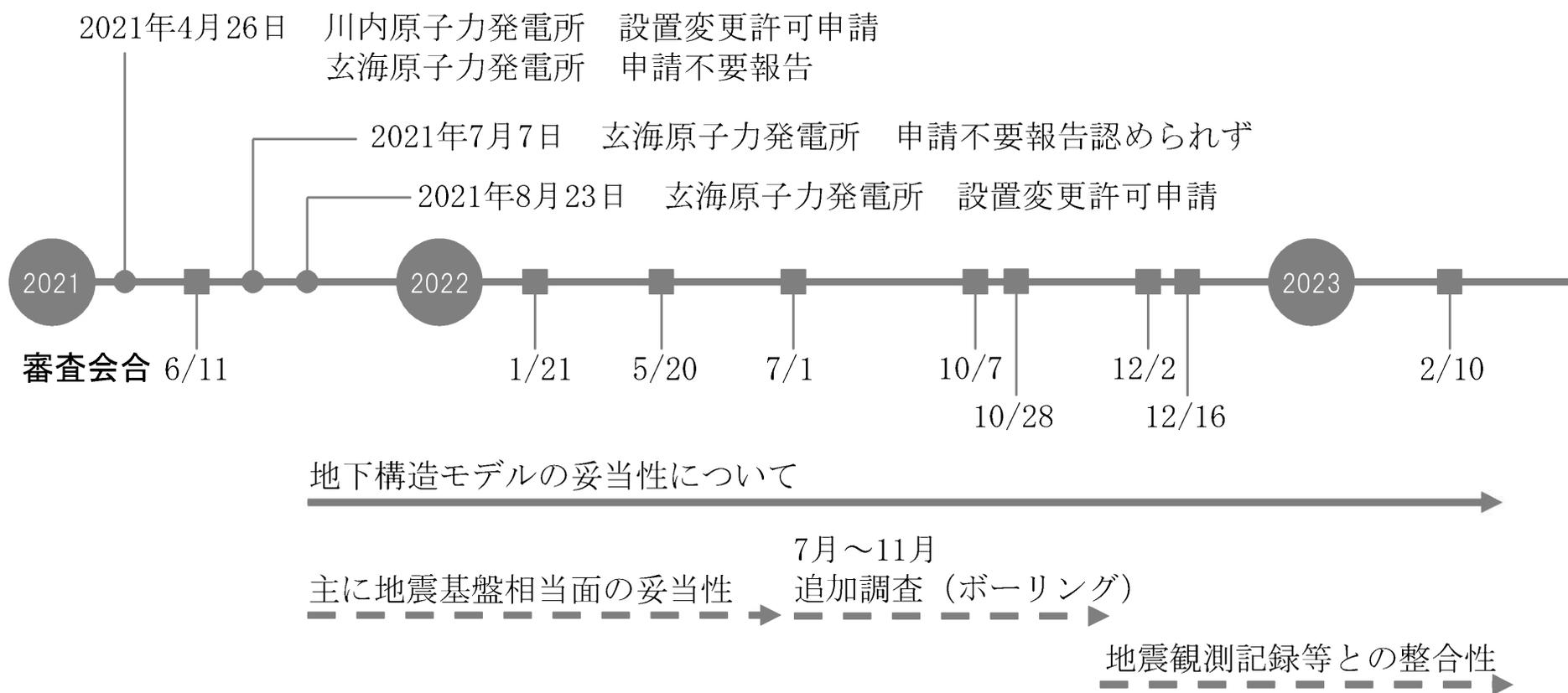
- |            |             |
|------------|-------------|
| ■ 川内原子力発電所 | — 活断層       |
| ● 九電常設観測点  | △ 気象庁       |
| ■ 九電臨時観測点  | ☆ 防災科学技術研究所 |
|            | ○ 大学        |



地震観測点配置図(川内原子力発電所の例)

[川内] 2021年4月26日設置変更許可申請後、計9回の審査会合を開催

[玄海] 2021年8月23日設置変更許可申請後、計8回の審査会合を開催



- 新規制基準への適合確認後、通常運転に復帰※し、現在、安全・安定運転を継続中。  
なお、1号機は、現在2月16日より定期検査中。

※ 1号機：2015年9月10日、2号機：2015年11月17日

- 通常運転復帰以降の主な取組み

取組み内容	状況	備考
特定重大事故等対処施設の設置	運用中	[1号機] 2020年11月11日完成 [2号機] 2020年12月16日完成
緊急時対策棟の設置	運用中	[指揮所] 2021年11月25日完成 [旧代替緊急時対策所との一体的運用] 2022年9月15日
運転期間延長認可に向けた対応	審査中	[運転期間延長認可] 2022年10月12日申請 (参考：40年運転期間満了日) 1号機：2024年7月3日、2号機：2025年11月27日

○新規制基準への適合確認後、通常運転復帰<sup>※</sup>し、現在、安全・安定運転を継続中。

※ 3号機が2018年5月16日、4号機が2018年7月19日

○ 通常運転復帰以降の主な取組み

取組み内容	状況	備考
特定重大事故等対処施設の設置	運用中	[3号機] 2022年12月5日完成 [4号機] 2023年2月2日完成
緊急時対策棟の設置	工事実施中	[設計及び工事計画認可] 2021年4月23日
使用済燃料貯蔵余裕の確保	—	
貯蔵能力変更 (リラッキング)	工事実施中	[工事計画認可] 2020年3月3日
使用済燃料乾式貯蔵施設	詳細設計実施中	[設置変更許可] 2021年4月28日